

臨床化学研修会報告書
生涯教育研修会報告書
学発番号 第 12-044 号

平成 24 年 12 月 7 日報告
報告者：後藤 直樹
所属：京都保健衛生専門学校
連絡先：075-801-2571

主題：臨床検査分野 研修会

主題 1：「SMBG の食事による血糖値の変動と SMBG 取り扱い注意点」

講師 1：木全 明子 氏（アークレイ マーケティング株式会社 学術センター）

主題 2：「HPLC 法、免疫法、酵素法による HbA1c 測定法

講師 2：延原 崇之 氏（アークレイ マーケティング株式会社 学術センター）

日時：平成 24 年 11 月 27 日（火） 18:30～20:30

場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室

分類：臨床化学部門 4 検体検査 52 20 点

全体参加人数：13 人

京臨技会員参加人数：9 人

他府県会員参加人数：0 人

学生参加者：0 人

仮会員参加人数：0 人

非会員参加人数：0 人

以下、講演内容など

主題 1「SMBG の食事による血糖値の変動と SMBG 取り扱い注意点」

SMBG の取り扱い方法の注意点について実機を用いて説明していただきました。SMBG には指頭採血が用いられるが、指頭採血は痛みを伴い、感染の危険性があるといった欠点もある。この痛みの欠点を軽減できるのが手のひらでの採血である。痛みが少ないという点では前腕、上腕、大腿、腹壁なども候補にあがるが、低血糖を見逃す可能性がある。手のひらでの採血では指頭採血とほぼ同じ動態をしめすことから、手のひらでの採血が利用されることがある。患者にとって、日々の採血で痛みを緩和できることは非常にメリットのあることである。

主題 2 「HPLC 法、免疫法、酵素法による HbA1c 測定法

HbA1c の測定法の基本的な原理、特徴を説明いただいた。以前は HPLC 法に対し、免疫法、酵素法の精度に問題があったが、現在では精度の問題は解消されている。HPLC 法では大量の検体を処理するには不向きであるが、免疫法、酵素法では汎用機にのせることで大量の検体を処理することができるメリットがある。現在では施設の規模にもよるが一般病院では HPLC 法が多く利用されている。検査センターでは、大量の検体を処理することから免疫法、酵素法も多く利用されている。

今回は SMBG、HbA1C について説明していただいた。糖尿病患者は現在も増加傾向にあるため、これらの検査の需要は減ることはないだろう。精度は良くなっているが、同じ項目で測定原理が異なるため値の比較にも注意が必要であると感じた。糖尿病関連の研修会は今後も積極的に開催したと考える。